最適処方につながるアカデミック・ディテリング～基礎薬学とエビデンス活用による処方支援～

小茂田昌代,^{*,a,b} 山本美智子^{c,†}**Academic Detailing Leading to Optimal Prescription: Supporting Prescription with Basic Pharmaceutical Sciences and Evidence**Masayo Komoda^{*,a,b} and Michiko Yamamoto^{c,†}^a*Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science; 2641 Yamazaki, Noda, Chiba 278-8510, Japan:*^b*Division of Academic Detailing Database, Research Institute for Science and Technology, Tokyo University of Science; 2641 Yamazaki, Noda, Chiba, 278-8510, Japan: and* ^c*Department of Drug Informatics, Center for Education & Research on Clinical Pharmacy, Showa Pharmaceutical University;**3-3165 Higashi-Tamagawagakuen, Machida, Tokyo 194-8543, Japan.*

社会情勢の変化や高齢化社会の到来、そして複雑化する医療ニーズに応えるため、日本の薬剤師の役割は広がってきている。薬剤師は、薬物療法にその専門性を発揮し、国民の健康への貢献が期待される場所である。そのためには、質の高い薬剤師の養成も、日本の医療システムを継続し、向上させるためには不可欠である。このような状況の中、薬剤師の活動として、注目されているのがアカデミック・ディテリングである。これは、医療従事者、特に医師に対する教育的なアウトリーチの手法である。訓練を受けたアカデミック・ディテラーが、医薬品や薬物治療に関し、有効性・安全性・費用対効果を考慮した適切な臨床上の判断が行えるように支援・推進する活動を行う。

薬剤師がアカデミック・ディテリング活動により、医薬品情報の評価や教育的資質を見極める医薬品情報リテラシーを身に付け、相手のニーズを考え、適切な情報提供を行うコミュニケーションスキルを向上させれば、薬物治療の最適化に向けた更なる社会的貢献が期待できる。海外では既にアカデミック・

ディテリングが薬学教育に導入されており、国内でもその導入を視野に入れ、薬剤師の専門性を確立する教育体制作りに寄与したいと考える。そこで、日本におけるアカデミック・ディテリングは、「基礎を臨床につなぐ科学的視点を強化し、さらにエビデンスを基にした公正中立な医薬品比較情報を能動的に発信する新たな医薬品情報提供アプローチ」として定義した。医薬品の科学的な特性と根拠に基づいた情報の提供により最適な薬物治療、特に医療費抑制をも目的としており、医療行政にも大きな影響を与えるものとなると思う。

同じ効果を示す医薬品の科学的特性から比較し、使い分けポイントを示すアカデミック・ディテリングは、患者にとって最適な医薬品が処方されることが期待され、その結果、安易な新薬の処方集中を回避し、医療費抑制も期待されたいと考える。アカデミック・ディテリングの実践には、医療の現場と大学教員、そして製薬企業との更なる連携が必要となり、薬学教育の充実にも大きく貢献することが期待される。本シンポジウムでは、アカデミック・ディテリングの普及に向けた大学、医療現場、製薬企業の様々な取り組みを紹介し、アカデミック・ディテリングの将来像に迫る。

^a東京理科大学薬学部（〒278-8510 千葉県野田市山崎2641）、^b東京理科大学研究推進機構総合研究院アカデミック・ディテリング・データベース部門（〒278-8510 千葉県野田市山崎2641）、^c昭和薬科大学臨床薬学教育研究センター医薬品情報部門（〒194-8543 東京都町田市東玉川学園3-3165）

現所属：[†]熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）

（〒862-0973 熊本市中央区大江本町5番1号）

*e-mail: komo1207@rs.noda.tus.ac.jp

日本薬学会第138年会シンポジウムS51序文